校長室だより

共学共高

第79号

令和7年5月13日発行

発行責任者
白梅学園高等学校長
武　内　　彰

オンライン英会話の授業

5月13日（火)、1年生の英語コミュニケーションⅠの授業にお邪魔した。というのも、今年度より外国人講師と1対1でコミュニケーションをとることができるオンライン英会話のシステムを導入したので、その様子を観に行ったのだ。

担当はA先生、クラスは1年7組である。生徒にとって、初めてのオンライン英会話の授業である。A先生の指示に従って、iPad上で生徒たちは授業支援ソフトMetaMojiClassRoomを開き、自分の名前の入った受講表をスクリーンショットで撮影する。その後、QRコードを長押しして、Zoomで開く。すると、自分の顔が画面上に映し出される。イヤホンやヘッドセットをつけた後は、外国人講師とつながるのを待つだけだ。始まるまでの待機時間では、そわそわしている様子の生徒が多いように感じる。初めて、外国人講師と1対1で英会話をするのだから無理もない。でも、そのうち慣れますよ。

外国人講師とつながると、あちこちで英語による発話が始まる。生徒たちは「My name is・・・」「Yes,・・・」「I enjoy playing tennis.」と発話したり、「手を振ったり」「OKサインを出したり」している。笑顔も見られ、楽しそうだ。接続などに不具合があると、A先生の手持ちのスマートフォンに情報が表示される仕組みになっているが、不具合は見られない。

講師との会話は、いくつかのレベルに分かれていて、順を追って5段階までいく。レベル1のテーマは、Small Talkだ。名前、年齢、出身などの自己紹介をする。レベル2のテーマは、Hobbiesだ。自由時間に何を楽しんでいるか。なぜそれをするのか。いつ始めたのか。それが仕事にできたらどうか。といったやりとりをしている。レベル3のテーマは、Plastic

だ。将来、プラスティックのボトルで飲料を飲むことは増えていくか、減っていくか。どうしてそう思うのか。といったやりとりをする。レベル 4 のテーマは、News だ。ニュースはオンラインでも、新聞・雑誌でも得ることができるが、どちらが良いか。ニュースを読むことは大切だと思うか。なぜそう思うのか。最後のレベル 5 のテーマは、Climate Change だ。各国は化石燃料よりも再生可能エネルギー源を優先すべきだと思うか。投げかけられる質問が、なかなかである。普段から時事問題などに触れていないと、すぐに自分の考えを整理して英語で表現するのは難しいかも知れない。

30 分があっという間に過ぎた。生徒たちからは、次のような感想を聞くことができた。「単語や文法があっているのか不安になるが、そういうときには講師の先生がいくつかの選択肢を用意してくれたので助けられた。」「緊張すると、単語がすぐに出てこないこともあったが、コミュニケーションをとることはできた。」「聴きとれないときに、『優しい英語で表現してください』と言うと、そうしてくれた。もっと英語を話せるようになりたい。」

終了後に、A 先生からの指示でアンケートに回答する。A 先生から「外国人講師からフィードバックがされて、最終的に成績に組み入れるからね。」との発言があると、生徒たちはいっせいに「エーーッ」と叫ぶ。「英語コミュニケーションだから当たり前か」とのつぶやきもある。A 先生からは「コミュニケーションという視点で考えてごらん。質問して回答までに間が開いたら、講師の先生はどのように思うだろうか。自分でひねり出すのか、言い換えるのか、翻訳アプリで解を出すのか・・・コミュニケーションの基本は enjoy でいいのですよ。この英会話の授業はあと 24 回あるのですから」との投げかけがある。すると、生徒たちからはまたしても、「エーーーーッ」の叫び声が上がる。A 先生が続けて投げかける。「発音も大事ですよ。Apple をカタカナ英語で言っても通じない。通じる発音を身に付けましょう。さて、言いたかったのに詰まったところなどがあったら、復習しましょう。」

最初の英会話授業としては、生徒たちは健闘したと言えるのではないか。あと 24 回の授業を通して、さらにスピーキング力とリスニング力を高めていってほしいものだ。これからは、単語やイディオムをインプットすることも、文法を理解することもより高いモチベーションで臨めるようになるといいですね。もっと話したい、もっと正確に伝えたい、そういう思いをもって学びに向かってほしいものである。

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）